

第5学年1組 体育科学習指導案

指導者 五味 祥瑛

1 単元名 「ソフトバレーボール（ネット型ボール運動）」

2 単元について

(1) 教材観

ソフトバレーボールは、ネットをはさんで2つのチームが相対し、ボールを打ち合ったり味方にパスを出したりしながら攻撃を組み立てて、得点を競い合う運動である。バレーボールに比べてボールが大きく軽いので、サーブやレシーブなどのボール操作がしやすく、怪我をあまり恐れずに参加できる特性がある。また、ネットをはさんでいるため、相手チームと接触することや妨害されることが無く、安心してチームのプレーに集中することができる。

また、ソフトバレーボールは、相手の打ったボールをレシーブする人・味方が打ちやすいようにパスする人・得点を決めるためにアタックする人といったようにチームの中で役割が生まれる運動である。ルールを工夫すれば全員に役割が与えられるため、運動の得意不得意に関わらずゲームに参加する必然性が生まれる。上手くボールをつないだり得点を決めたりする個人の技能に加えて、チームの仲間と協力することで生まれる一体感も楽しむことができる。一方で、失敗がそのまま失点につながる場合が多く、失点した要因が分かりやすいため、運動に苦手意識を感じている児童にとってはプレッシャーを感じやすい運動ともいえる。ただし、ボールの操作に高い技術を要さないためゲームに参加しやすく、作戦が上手くいった時や上手くレシーブやアタックができた時、相手とのラリーが長く続いた時などに楽しさを味わうことができる運動である。さらに、得点ごとにプレーが止まるため、その都度チームの仲間と作戦を立てたり励まし合ったりすることができ、友達と関わり合う楽しさを感じることができる運動である。

(2) 児童観

児童はこれまでにネット型のボール運動として、キャッチバレーボールに取り組んできた。味方同士でボールをつないで、ネットを挟んだ相手にボールを返球するという、ネット型ゲームの基礎的な知識やルールは身に付いている。また、キャッチバレーボールはボールを捕る・投げるという普段行う機会の多いボール操作でゲームを進めることができるため、児童にとって取り組みやすい。しかし、本単元ではボールを打つ・はじくという今までにあまり経験してこなかったボール操作が必要となる。これらのボール操作の技能はソフトバレーボールを行う上で基本的な技能となり、ゲームを進行する上で不可欠な技能となる。そのため、単元を通してボールに慣れる運動を取り入れたり、ICTを使って課題を確認し、改善点を意識して練習するなど、工夫して単元の学習を進めていきたい。

(3) 指導観

指導においては次の3つの点に留意しながら学習を進めていきたい。

1点目はルールの工夫である。ソフトバレーボールは、使うボールの種類やネットの高さ、1チームの人数やボールの返球の仕方など、児童の実態に合わせてルールを変えることができる。児童の実態に応じてルールを設定し、知識や技能の習得に合わせてルールを難しくしていくことで、全員が楽しみながら運動することや難度を上げるための学びの必然性を感じさせながら学習を進めていきたい。

2点目はICTの活用である。本単元では主に技能習得の場面と見通しと振り返りの場面で一人一台端末を活用していきたい。ボール操作の練習の様子や試合の様子を記録し、見返すことで自分に必要な技能や練習を考えたり、試合の様子を振り返って作戦を立てたりするなど、個人やチームの技能向上に活

用したい。また、学習カードの記入も端末上で行わせることで、児童が自分やチームの課題を、記録を見ながら考えさせたいと考える。教師も児童のつまずきの発見や課題をどう考えているのか等、児童の実態を把握しやすい。

3点目は対話の充実である。上記の教材観で記述したように、ソフトバレーボールは得点の度に仲間同士で会話する機会があるため、仲間同士での対話を通して技術を向上させたり得点するためにはどうしたら良いのか思考させたりしたい。

3 児童の実態

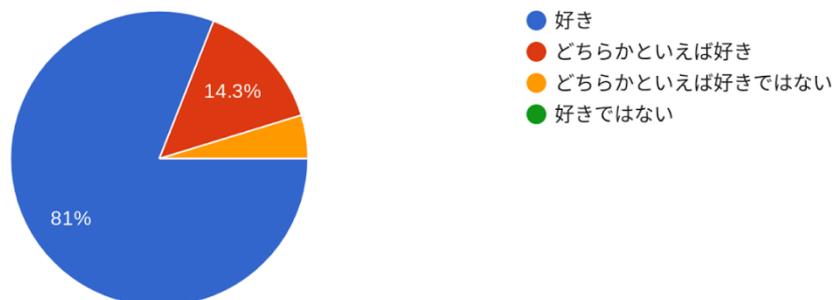
男子17名（特別支援学級所属2名）女子4名の計21名の学級である。積極的に授業に参加する児童が多く、授業中の発言も多い。体を動かすことが好きな児童も多く、休み時間には外に遊びに行き、運動している児童が多い。

児童間の関わり方については、誰とでも隔たり無く関わるができる児童が多く、協力して授業に参加することができる。困っている友達をサポートしたり苦手な活動に苦戦している友達にアドバイスしたりする姿も見られ、チームで協力して練習や試合に取り組むことができると考えられる。しかし、勝敗にこだわってしまったり友達のミスを認められなかったりする様子も見られるため、励まし合ったりアドバイスし合ったりする活動の場面については適宜指導していきたい。

【体育の授業・ボール運動に関するアンケート結果（21名実施）】

体育の授業は好きですか。

21件の回答



ほとんどの児童が体育の授業は「好き」「どちらかといえば好き」と答えた。体育の授業は領域に関わらず多くの児童が意欲的に取り組んでいる。特にボール運動などの勝敗がつくものについては熱中し、休み時間に練習している姿も見られる。

今までの体育の授業でうれしかったことなど思い出に残っていることは何ですか。

- ・やったことのない技を手本を見て一度で成功したこと。
- ・チームのみんなで協力して勝つことができた時。
- ・跳び箱で8段飛べたこと。・縄跳びで二重跳びが10回できたこと。
- ・リレーでバトンパスが上手くいったこと。
- ・味方から励まされたりほめられた時。 など

児童は新しい技や今までできなかったことができたときに喜びを感じていることがわかった。また友達との関わり合いのなかでも喜びを感じている児童もいた。本単元でも、できたという達成感や仲間と関わり合う楽しさを感じさせながら学習を進めていきたい。

「自ら考え、互いに学び合う子どもの育成」
～ICTを活用した教育活動と体力向上の取組を通して～

(1) 重点目標を達成するための手立て

重点目標①「児童が主体的に運動できる学習活動を充実させる。」

手立て①【基礎感覚づくりを継続的に行い技能の向上を図る。】

ソフトバレーボールを楽しむためには、レシーブ・トス・アタックなどのボール操作の技能を用いてラリーを続けることが重要であり、ボールが繋がらないと楽しさを感じにくい。学習の進度によってルールを変更していくが、どの段階においてもボール操作の技能は必要になる。日常的に行う機会が多い、投げる・蹴るといった動作とは異なるバレーボール特有の打つ動作は、単元を通して繰り返し練習を行い、基本的な技能の定着を図りたい。

手立て②【コート・用具を工夫して児童が楽しめるよう工夫する。】

〈コートの工夫〉

児童がソフトバレーボールを楽しむためには、ボールをつなげることや返球することが不可欠である。そのため、コートの広さはボールの拾いやすさを考えてバドミントンコートを使用する。(縦 13.4m 横 6.1m) 詳細はルールの工夫で後述するが、コートに入る人数は3人に設定している。バドミントンコートの広さであれば3人で返球までつなげることができると考えられる。また、ネットの高さは約 180 cm に設定する。高すぎると中々返球できず、低すぎるとすぐに返せたり、返球されるボールの角度が急で取ることが難しくなったりして、楽しさが損なわれるため、本学級児童の身長等を鑑みこの高さに設定した。

〈用具の工夫〉

コートを作る際に使用するボールはバドミントンで使用するボールで大きさ・重さ共に児童だけで簡単に運べるものである。また、ネットはマジックテープがついているものであり、簡単にポールに設置することができる。このことにより、コートの準備の時間を短縮し、運動量を確保することができ、児童が進んで準備や片づけを行うことができると考える。また、使用するボールは直径約 70 cm のビニール製のボールであり、100 g と軽量である。ボールを打った時や当たった時の痛みはほとんど無く、児童も進んでボールを打つことができると考える。

手立て③【ルールを工夫して児童が成長を感じられるような単元計画を作る。】

本単元で行うソフトバレーボールは、チームの人数やボールに触れる回数、キャッチ可能にする等、児童の実態に合わせてルールを変更することとする。ボール操作やルールの理解度を細かく見取り、児童の発達段階に合わせてルールの難度を上げていき、単元の学習を通して自他の成長を感じることができるようになることをねらいとしている。本単元では大きく3つのレベルに分けて単元を構成している。簡易的なゲームから段階的に学習を進めていき、児童と確認しながらルールを変更して学習を進めていく。

重点目標②「主体的で対話的で深み学びを実現する体育授業の実践」

手立て①【一人一台端末を活用して練習や試合の記録を取り、技能習得や振り返りに活用する。】

トスやレシーブといったボール操作の技能の習得は、単元を通しての反復練習が必要となる。上手くできない児童や方法を振り返りたい児童が常にコツやポイントを確認することができるようにしておくことで技能習得の手助けとなると考えられる。そのため、児童が使用する Chromebook の Classroom、ストリーム機能を使い、常にお手本となる動画を見られるようにしておく。用意する動画は参考になる動画が掲載されているホームページのリンクを載せたり、教師が実際にボール操作を行っている動画を載せたりしておく。加えて、自分のボール操作の様子を記録し、お手本の動画と見比べることで、改善点を見つけたり練習方法を考えたりして、技能習得を意欲的に行えるようにする。また、自分の記録やチームの記録を基に授業の振り返りを行い、漠然とした学習感想だけを持つのではなく、具体的に自分やチームの課題を見つめなおして次時への見通しを持たせたい。

手立て②【対話の時間を充実させ、自分やチームを高め合う機会をつくる。】

練習の様子や記録をチーム内で共有することで、互いの課題について様々な視点で考えさせたい。自分だけでは気付かなかった問題点に気が付いたり、チームで必要なことや効果的な作戦を話し合ったりすることで互いに学び合う力が身に付くと考え。ゲーム中も、ゲームをしないで外から見ている児童はアドバイスをしたり声をかけたりして、チームに貢献するよう意識させたい。ローテーションで自分が客観的にゲームを見る機会は必ず訪れるため、外から見ることでその時間も有効活用できるようにしたい。

手立て③【学習カードを活用した実態に即した振り返りと効果的なレスポンスを行う。】

学習カードは一人一台端末上で記入させ、教師のコメントも端末上で行う。学習カードには、記録をもとに具体的な振り返りを行うようにし、必要に応じて動画を添付させる。児童がなぜそのような振り返りをしたのか、動画で確認することができ、児童の実態に即した助言を行うことができる。動画を添付させることで、授業中に見ることができなかった児童に対しても必要な支援を行うことができるため、つまずきの見落としを防ぐことにもつながると考える。

5 単元の目標

- (1) 簡易的なソフトバレーボールの行い方を理解するとともに、基本的なボール操作によってゲームができるようにする。

【知識及び技能】

- (2) 自身の技能やチームの特徴に合わせて練習や作戦を考えるとともに、考えたことを友達に伝えたり聞いたりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- (3) ルールを守り、勝敗や友達の考えを受け入れながら協力して学習に取り組めるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
<p>①簡易化されたソフトバレーボールの行い方について言ったり書いたりしている。</p> <p>②アンダーハンドパスやオーバーハンドパスなどの基本的なボール操作をすることができる。</p> <p>③味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。</p>	<p>①チームの特徴に応じた作戦や個人の技能にあった練習を選んでいる。</p> <p>②自分が考えた作戦を言葉や図を使って他者に伝えている。</p>	<p>①練習やゲームに積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②勝敗にこだわり過ぎず、友達と励まし合いながらゲームを楽しもうとしている。</p> <p>③ルールやマナーを守り、友達と協力しながら練習やゲームに取り組もうとしている。</p> <p>④用具の片付けや準備を友達と一緒にしようとしている。</p>

7 単元の構想

時	1	2	3	4	5	6	7	8
レベル	レベル1		レベル2		レベル3			
本単元の学習過程	1	オリエンテーション ・学習の進めかたの確認 ・ソフトバレーボールとは ・学習カードの記入の仕方	ボールに慣れる運動					バレーボール大会
	2	ボールに慣れる運動	学習課題の確認					
	3	試しのゲーム	チーム練習					
	4	振り返り	ゲーム（前半）					
			課題や作戦を考える					
			ゲーム（後半）					
			課題の振り返り					

ソフトバレーボールのゲームの段階的なルール

どの段階においても変わらないルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1チーム5人(6人)でゲームに参加するのは3人。2人はコート外からアドバイス。 ・ 点が入ったら1人ずつローテーションを行う。 ・ サーブは自分のコートから下投げで行う。得点したチームがサーブを行う。 ・ 10分間で多く取ったチームの勝ち。 ・ ボールはワンバウンドしてからキャッチや返球をしても良い。
レベル1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人目, 2人目ともにボールをキャッチしてから投げる。 ・ ボールをキャッチしてから歩いても良い。 ・ 必ず3回ボールを回してから相手コートに打って返球する。
レベル2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手コートから来たボールはキャッチせずにワンバウンド以内に味方へパスする。 ・ ワンバウンド以内にパスをキャッチする。ボールをキャッチしてから歩いても良い。 ・ 必ず3回ボールを回してから相手コートに打って返球する。
レベル3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手コートから来たボールはキャッチせずにワンバウンド以内に味方へパスする。 ・ ワンバウンド以内にパスは何回しても良い。 ・ ボールをキャッチしてからは, 歩くことができない。

単元の指導・評価計画

時	レベル	主なねらい (○) 学習活動 (・)	評価の観点・方法		
			知・技	思・判・表	態度
1	レベル1	○ソフトバレーボールの学習の進め方を知る。 ・ 1時間の進め方・単元の進め方・学習カードの記入の仕方の確認 ○ソフトバレーボールのルールについて知る。 ・ ソフトバレーボールの基本的なルールややり方を理解する。 ○ボールに慣れる運動をする。 ○試しのゲームを行い, 試合の仕方を知るとともに自分やチームに不足している課題を知る。	①観察・カード		
2		○味方がアタックしやすいようにパスすることができる。 ・ ボールに慣れる運動を行う。(アタック練習) ・ どういうパスが打ちやすいか話し合う。 ・ 話し合ったことをもとにアタック練習を行う。 ・ ゲームを行う。		①観察	②観察

3	レベル2	<ul style="list-style-type: none"> ○アンダーハンドパスを使って味方にパスをつなげることができる。 ・ボールに慣れる運動を行う。(アンダーハンドパス) ・味方がキャッチしやすいボールをパスするためのポイントを考えて練習する。 ・パス回しゲームをする。 ・ゲームを行う。 	①観察・カード	①観察・カード	
4		<ul style="list-style-type: none"> ○練習や試合の様子を観察し、自身やチームの課題を考えることができる。 ・ボールに慣れる運動を行う。(アンダーハンドパス) ・課題を発見するために練習とゲームの様子を録画する。 ・パス回しゲームをする。 ・ゲームを行う。 		②観察	④観察・カード
5	レベル3	<ul style="list-style-type: none"> ○色々なパスの方法でパスをつなぐことができる。 ・ボールに慣れる運動を行う。(円陣パス) ・オーバーハンドパスの練習を行う。 ・パスの方法やポジションなど、パスをつなげるにはどうすればよいのか考える。 ・体の向きやポジションに気を付けてゲームを行う。 	①観察・カード	①観察	①観察
6		<ul style="list-style-type: none"> ○チームの特性に合った作戦やポイントを考えて伝え合う。 ・ボールに慣れる運動を行う。(円陣パス) ・記録をもとにチームごと作戦を考える。 ・ゲームを行う。 	③観察・カード		②④観察・カード
7 本時		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを行う。 	③観察・カード	②観察・カード	
8		<ul style="list-style-type: none"> ○これまで学習してきたことを生かして、ソフトバレーボールを楽しむ。 ・ボールに慣れる運動を行う。(円陣パス) ・ゲームを行う。 ・ソフトバレーボールのまとめを行う。 			②③④観察・カード

8 本時の展開

- (1) 日時 令和4年10月12日(水) 6校時
- (2) 場所 甲府市立新紺屋小学校 体育館
- (3) 本時の目標

◎チームの課題を考え、課題解決のための手立てを聞いたり伝えたりしている。

【思考・判断・表現】

○捕球しやすいポジションや味方が取りやすいボールを考えて、パスすることができる。

【知識・技能】

(4) 準備品

〈教師の準備品〉ボール・ネット・得点板・笛

〈児童の準備品〉ビブス・赤白帽子・Chromebook

(5) 本時の指導意図

本時の指導では、毎時間行っているボールに慣れる運動を行う。アンダーハンドパスやオーバーハンドパスといったボールを「打つ」操作を本格的に行うのは本単元で初めて経験するボール操作であるため、単元を通してボールに慣れる運動を行い、ソフトバレーボールに必要な基礎的な技能を身に付けさせる。

児童は前々時からレベル3のルールでソフトバレーボールに取り組み始めている。レベル2までは1人目からのパスをキャッチした後、3人目の味方が打ちやすいポジションまで歩くことができたが、レベル3からはボールをキャッチしてから歩くことができない。その代わりにパスできる回数を増やし、アタックしやすいポジションまでパスでつないぐ必要がある。そのため、ボールをつなぐためにはどのようなことに気を付ければいいのか、仲間同士で課題やポイントを共有していくことが求められる。ボールをつなぐには、山なりのパスをだすことやボールの落下点に移動することでつながりやすくなることに気付かせたい。そこで本時では、前回の授業の記録をもとに児童一人一人にチームに必要なポイントを考えさせるようにする。前回の授業のゲームの様子を記録しておき、その記録をもとにどのようにすればパスがつながるか考えさせる。考えた意見はチーム内で交流させるが、効率よく話し合いを進めるために意見は短く「アドバイスフレーズ」として一言でまとめさせる。端的にポイントをまとめさせることで、ゲーム中にも意識がしやすく、味方も声をかけやすくなる。本時の作戦タイムでは、チーム内で共有したアドバイスフレーズの確認を行い、それを活かしてゲームを行うようにする。

(6) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点 (・指導, ○評価規準, ◇手立て)
つかむ 5分	1 集合・整列・挨拶・準備運動をする。	
	2 ボールに慣れる運動を行う。	◇単元を通してボール操作の技能を高める運動を行う。
	3 本時の流れ・学習課題の確認を行う。	
チームに合ったアドバイスを考えて得点につなげよう		

考える 5分	<p>4 課題学習【作戦タイム】</p> <p>(1) 作戦の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム内で共有した課題を確認し、ゲーム中に意識することや気を付けることを確認する。 <p>(2) 作戦の決定・試合の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に行う作戦の確認を行う。 	<p>○【思考・判断・表現】記録をもとにチームにあった作戦を考え、聞いたり伝えたりすることができる。(観察・アドバイスカード)</p> <p>・考えてきた作戦が上手く伝わるように実際にコートで試したりポジションを確認したりする。</p>
深める 30分	<p>5 発展学習【ソフトバレーボール】</p> <p>(1) 対戦相手をローテーションしながらゲームを行う(5分×4)</p> <p>(2) ゲームとゲームの合間に作戦やアドバイスの確認を行う。(3分×3)</p>	<p>○【知識・技能】味方が取りやすいボールや捕球しやすいポジションを考えて、パスすることができる。(観察)</p> <p>◇得点が決まった時やゲームとゲームの合間に作戦やポイントを確認する。</p>
まとめる 5分	<p>6 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点につながるプレーはどんなプレーだったのか、試合をもとに意見を発表しあう。 <p>7 片づけを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをしながら今日気付いたことや感じたことを授業後に学習カードに書く。 ・協力して片づけを行う。

(7) 評価

◎記録をもとにチームにあった作戦を考え、聞いたり伝えたりしている。

【思考・判断・表現】

○味方が取りやすいボールや捕球しやすいポジションを考えて、パスすることができる。

【知識・技能】

9 学習資料

(1) 学習カード

月 日

ソフトバレーボール学習カード 第 時

1. 今日のめあて
2. よかったところや次の時間にがんばりたいこと
3. 先生から



今日の動画をもとに、チームの課題を考えよう！



(3) 学習カード集計

自動的に児童の振り返りが一覧として表示され、一覧にコメントすると各児童の学習カードに反映される。

2022/09/26		ソフトバレーボール学習カード集計表			第2時
氏名	今日のめあて	自己評価	よかったところや次の時間にがんばりたいこと	先生から	
4	アタックしやすいパスをしよう	よくできた	次の時間もっといいパスをしたい	いいパスってどんなパスかな。そこまでかけるといいね。	
5	アタックしやすいパスをしよう	よくできた	アタックする人に合わせて高さを変えると打ちやすかった。	どれくらいの高さが打ちやすいかもポイントだね。	
6	アタックしやすいパスをしよう！	よくできた	アタックする人の手のひらにトスを合わせたらゆうきくに、「今のトスめっちゃ打ちやすかった！」とってもらえたので、嬉しかったです。あと味方とパスが繋がれば、とても、盛り上がりました！	アタックする人によって打ちやすいポイントがちが気づけたのは素晴らしいね。チームではけましようことも大切なことだね。	
7	アタックしやすいパスをしよう。	できた	高く分ふんわり投げてあげれば、いいアタックが範囲からでずによく打ちたい。	高さやさしさがポイントだね！力かけんがポイントだね。	

(4) ストリーム

Chromebook の Classroom, ストリームにアップされたポイントを示した動画や練習や試合を記録した動画。

9月29日

Aチームローテーション練習・試合



VID_20220929_100452.m...
動画



VID_20220929_095611.mp4
動画

クラスのコメントを追加...

9月29日

Dチームローテーション練習・試合



VID_20220929_100512.mp4
動画



VID_20220929_095618.mp4
動画

単元計画 (指導と単元の計画)

時間	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8
ルールレベル	レベル1		レベル2			レベル3		
0	○オリエンテーション							
5	○単元のねらい ・単元の流れ ・1時間の流れ ・チームについて							
10	○ソフトバレーボールを知る		○課題学習 チーム練習		○課題学習 チーム練習		○ソフトバレー大会 (秋小バレー2022)	
20	・ルールの確認 ・見ている人の役割の確認		○発展学習 (前半戦) ・練習を活かして他のチームとゲームをする		○発展学習 (前半戦) ・ボール回しゲーム		○発展学習 ・アトバイスアスを活かして他のチームとゲームをする ・ゲーム1 ・ゲーム2 ・ゲーム3 ・ゲーム4	
25	・1人目と2人目キャッチー3人目アタック ・キャッチしてから歩いて良い ・3人で回してからボールを返す		・1人目パス→2人目キャッチー3人目アタック ・キャッチしてから歩いて良い ・3人で回してからボールを返す		・ゲーム1→作戦タイム (3分) ・ゲーム2→作戦タイム (3分) ・ゲーム3→作戦タイム (3分) ・ゲーム4		・ゲーム1 ・ゲーム2 ・ゲーム3 ・ゲーム4	
30	○動き方やエッジなど共有・課題の確認							
35	○試しのゲーム ・どのような技能が必要か知る		○発展学習 (後半戦) ・前半を活かして後半のゲームをする		○発展学習 (後半戦) ・前半を活かして後半のゲームをする		○発展学習 (後半戦) ・ゲーム3→作戦タイム (3分) ・ゲーム4	
40	○振り返りと反省							
45	○集合・整列・挨拶 ○片付け							
評価	知識・技能	①観察・カード	①観察・カード	②観察	①観察・カード	③観察・カード	③観察・カード	
	思考・判断・表現		①観察	①観察・カード	②観察	①観察	②観察・カード	
	主体的な学習態度	②観察	②観察	④観察・カード	①観察	②④観察・カード	②③④観察・カード	